



松 明

(令和5年9月発行・隔月発行) 2023 vol.5



P2 たんぽぽ保育園納涼会より

防災訓練に参加して

看護部 第3病棟 看護師 増子由里

9月6日に3病棟で防災訓練を実施しました。

事前に出火場所を知らされていたので、病棟では机上で病棟図面を見ながらスタッフ同士で意見を出し合い、参加する各スタッフの動きや、患者さんを安全に避難誘導するための経路等を確認しました。

当日は当病棟だけでなく、各部署のスタッフが応援として参加しました。声を掛け合いながら実施し、想定された時間より早い時間での避難完了となりました。今回の避難訓練は患者役も含め他部門の参加も多く病院全体での防災に対する意識を高めることができたのではないかと感じました。

終了後の振り返りでは改善点等もありましたが、患者役のスタッフから移動時の声かけは「安心感に繋がった」との意見も聞かれました。スタッフ自身の不安がある中



でも患者さんを安心させることの必要性を再確認しました。

今回は訓練であったため事前に動きを予測できましたが、実際の火災はいつ起こるかわかりません。そのため定期的な防災訓練の実施や日々の防災への意識が大切だと感じました。



本号のご案内

- 防災訓練に参加して 1
- 看護部日より 高校生の1日看護体験を実施して 3
- 療育日より コロナ禍での取り組み～今出来ることを考えよう～ 2
- 健康プラザ 飯を食べ続けていくために 3
- たんぽぽ保育園納涼会 2
- 外来担当医表 4

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

令和5年9月8日（金）、「第3回新型コロナウイルス禍における重症心身障害者（児）領域の療育等のオンライン研修」が開催され、当院の大山保育士も「院内の日中活動環境」というテーマで院内での取り組みを発表しました。

研修では、国立病院機構グループ内の8つの指導室スタッフが講師を務め、各病院がコロナ禍で行った取り組みの講義が行われました。その中でも東埼玉病院の取り組み「疑似旅行体験」が印象的でした。この活動は、日々の療育活動で使用しているぬいぐるみが患者様の代わりに沖縄を旅して、観光名所を周ったり、スキューバダイビング体験を行ったりする様子を患者様がオンラインで視聴し、沖縄旅行に行った気分を味わうといった内容です。旅行会社などの社会資源を有効活用しながら、様々な面で患者様が安全に楽しめるような工夫がされており、コロナ禍ならではの取り組みだと思いました。この研修を通して、コロナ禍だから活動に制限があっても仕

方がないと思うより、コロナ禍だからこそ多職種が連携をして、病院全体が一丸となって患者様のために必要なことや、患者様が求める豊かな生活を考え、行動に移していくことが大切だと改めて感じました。研修で得た知識を福島病院の療育活動や行事等に活かしていきたいと思います。



たんぽぽ保育園納涼会

たんぽぽ保育園 保育士 小野塚 恭子

今年の夏は、暑さが厳しく前日の神輿担ぎの練り歩きが出来ませんでした。数日前から部屋などに提灯を飾り雰囲気づくりをすると、お子さまたちはカウントダウンをして、当日をとっても楽しみにしていました。今年度は、気温と感染症対策として時間を短縮して行い、納涼会を盛り上げました。テーマは、年長児のお子さまが考えた「アンパンマン」です。お子さまたちの元気パワーで神輿を担ぎ、親子で盆踊りを踊り、アンパンマン的当てや

カビルンたたきなどアンパンマンにちなんだ出店をめぐりながら、友だちや親子で楽しいひとときを過ごしました。



看護部だより

高校生の1日看護体験を実施して

看護部 副看護部長 久光 睦子

7月26日（水）朝から真夏の太陽が照りつけ気温が急上昇したこの日、応募があった郡山、須賀川地区の高校3年生7名の看護体験を受け入れました。

福島県看護協会では、看護体験を通して、看護の仕事は人々の生命を守る大切な仕事であることへの理解を深め、看護職へのイメージを持つことにより看護への関心を高めるといった目的で毎年開催していましたが、コロナ感染症感染拡大の影響を受け4年ぶりの開催となりました。

病棟紹介では、看護の仕事がイメージできるように写真を多く取り入れたスライドで説明しました。また、コ

ロナ感染症対策の防護具を実際に着用してみる体験や手に模擬の汚れをつけて手洗いをして汚れの落ち具合をブラックライトを当ててみるなど、日常では経験できないことを企画し実施しました。病棟は感染対策のため30分のみ見学となりましたが、患者さんの入院生活環境を担当の副看護師長が説明しながら回りました。また、高校生から事前にいただいた質問に答える形で、新人看護師や副看護師長と対面式の会話を楽しみました。事後アンケートでは、7名全員が医療関係に進みたいと回答し、看護師を目指したいと宣言してくれました。この経験が将来の看護の道につながることを願います。



健康プラザ

ご飯を食べ続けていくために

リハビリテーション科 言語聴覚士 菅野 由衣

夏の厳しい暑さがそろそろ終わりを迎え、朝夕はいくらか凌ぎやすい日も増えてきました。秋になると、新米やさつまいも、秋刀魚など旬の食べ物が食卓に並ぶと思います。

私たち言語聴覚士は、コミュニケーション訓練のほかに、食べることや飲み込むことについても評価や訓練を行っています。年齢を重ねてくると身体が動かさづらくなるように、口の周りの筋肉や舌も同様に動きにくくなっていきます。より長く好きなものを食べ続けられるように、今回はどこでも行える口や舌の体操をいくつか紹介させていただきます。



- ①口をすぼめ「ウ」の形を作り、「イ」と横に開く動きを交互に行う
- ②頬を膨らませて、すぼめる動きを交互に行う
- ③舌で頬を押し、自分の手で頬の上から舌を押し動きを左右交互に行う
- ④舌を前に出し、舌の先を上と下に交互に動かす
- ⑤「ぱたから」と発音

(オーラルフレイルのための口腔体操－日本歯科医師会より)

食事中に、疲れやすくなってきたなと感じる方は、この運動を行ってみてください。各10回ずつ2セットほどが目安です。無理のない範囲で行うようにしてください。

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和5年9月1日現在】

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内 科 2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査				安田千尋	
脳 神 経 内 科	伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小 児 科	福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		石井勉 氏家二郎			河原田勉
専 門 外 来 (小児神経外来)			石井希代子		
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃井伸緒 (第2)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科	古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小 児 外 科				清水裕史	
脳 神 経 外 科		福島医大 (第2)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は令和5年9月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認ください。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

先日4年ぶりに釈迦堂川花火大会が開催され、会場や自宅などでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。当院は開催場所から近く、敷地内からでも迫力のある大きな花火を見ることができました。1万発の花火が打ち上げられたそうです。夜空に咲く大輪の花火は、暑い夏の締めくくりにふさわしいほど美しいものでした。
(編集委員 S・R)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>